

受験者の皆様へ

認定臨床微生物検査技師制度
筆記試験問題作成ワーキンググループ委員会
試験実行委員会

認定臨床微生物検査技師 資格認定試験を振り返り、伝えたい注意事項

2023年度の資格認定試験を終え、試験委員から受験者の皆様へお伝えしたい事項をまとめました。
認定臨床微生物検査技師として、また微生物学的検査の専門家として更なるレベルアップと感染症診療への貢献を望みます。

記

試験に直接関係する部分は下線で示しています。

1. 筆記試験

- ・指定カリキュラムの検査室の管理および体制(セクション II)、日常検査で遭遇する機会が少ない細菌、真菌、寄生虫の正答率が低い傾向です。この部分を補強していただくようお願いします。
- ・筆記試験の解答はマークシートを使用しています。解答を2つ選ぶ問題に対し、1つしかマークしない等のミスが多く認められます。「2つ選べ」、や「誤っているのはどれか」、「用いられないのはどれか」など誤ったものを選ぶ問題は、問題文に強調表示しています。このようなミスは試験に限らず、日常業務にも直結しているのではないかと危惧します。十分注意してください。
- ・英語問題は、短文の和訳、グラフや表のデータから読み取る問題を出題しています。普段から、新しい情報を収集する目的で、関連領域の論文や情報に積極的に接するよう心掛けてください。

2. 実技試験

- ・実技試験は、塗抹検査、同定検査、培養検査、薬剤感受性検査の4科目で構成しています。

1) 全体：菌名のスペルミスが非常に目立ちます

- ・スペルミスやカタカナ表記は減点対象としています。日常検査では検査システムによって出力され、手書きする機会はほとんどありませんが、医学的に重要な細菌や真菌はスペルミス無く書けるよう練習していただきたいと思えます。
- ・なお、ウイルスや寄生虫は和名表記で評価しています。

2) 同定検査における重要事項

- ・試験管確認培地による同定

同定キット、同定検査装置、質量分析装置が普及し、試験管確認培地を使用する機会が減少しています。しかし、糞便検査において、TSI 寒天培地などの試験管培地によるスクリーニングは必要であり、キットや装置による同定結果の妥当性を確かめるにも必要です。コロニーを全て同定キットや装置で同定するのは不経済であり、合理的な検査とはいえません。

試験管確認培地による性状を正しく判定し、菌種を同定する能力は今後も評価対象とします。

正しく同定できないことが臨床上の重大なエラーに繋がるような誤りは、減点にとどまらず認定臨床微生物検査技師としての力量不足とみなし、不合格となる可能性があります。

•スライド凝集試験は、無菌操作、抗血清と被検菌の量の適正さに注意する必要があります。白金線や白金耳はディスポーザブル製品が多く使用されていますが無菌操作法は変わりません。無菌操作が身に付いていないと判断した場合は、微生物を安全に取り扱う技術が不足とみなし、不合格となる可能性があります。

•試験結果の試験委員への提示

検査する菌株を取り違えて判定または検査している受験者が認められます。菌株や検体の取り違えはあってはならない重大なエラーであり、不合格となる可能性があります。

3) 培養検査

•患者の臨床背景と分離培地上のコロニー性状による菌種推定は、後の検査方針の決定や結果の意義付けに重要な分析工程です。

•試験では、医学的に重要かつ非選択培地や選択培地上でのコロニー性状や発育形態から推定すべき菌種を出題しています。日常検査を通じて習熟しておいてください。

4) 薬剤感受性検査

•多くの検査室で自動検査装置が使用され、目視で MIC を判定する機会は少ない状況です。しかし、MIC を正しく判定できない、不等号を正しく表記できない受験者が認められます。

•試験では目視で MIC を判定できることは、その意味を確実に理解できていると評価しています。不等号の正しい表記も同様であり減点対象としています。

•ディスク拡散法は微量液体希釈法に置き換わることはありませんので、阻止円直径を正しく測定できることを評価しています。

•薬剤感受性パターンや薬剤耐性の検査結果に基づく薬剤耐性の推定、耐性菌と判定した場合に感受性解釈を交換すべき抗菌薬を理解すると共に、耐性遺伝子や流行しているタイプに関する疫学も勉強してください。

以上